

# まなびや

## 世界が認めた観察眼

### 平瀬作五郎とイチヨウの精子発見

#### 教師として、画工として、そして研究者として



平瀬作五郎

平瀬作五郎は、福井市出身（一八五六・安政3年）～一九二五・大正14年）の植物学者、教育者。福井藩中学校で学んだ後、岐阜県などの学校で勤務しました。

一八八八（明治21）年、帝国大学植物学教室に植物画などを描く画工として採用されました。一八九三年からイチヨウの研究を開始、一八九六年に世界で初めてイチヨウの精子の存在を顕微鏡で発見し、世界を驚かせました。一九二二（明治45）年に、この功績により帝国学士院（現日本学士院）の恩賜賞を受賞。帝国大学

退職後は、滋賀県、京都府の学校に勤務しました。

### 教育者として

#### 日本で最初の修学旅行？

平瀬が岐阜で教員をしていた時、郷里の福井に帰省した際、敦賀港で汽船を初めて見ました。その見聞を話しても生徒は理解できません。そこで平瀬は、生徒を引率して「百聞は一見にしかず」とばかり旅行を実施。各々見聞した成果を歴史部・地理部にまとめさせました。

当時の森有礼文部大臣が、その紀行記を激賞した記録も残っています。一般的な東京高等師範学校の記録（明治20年）より古く、これが最初の修学旅行ではないかと言う説もあります。理論を抜きにして、

まず実行するという平瀬の主義が良く表れた逸話です。

### 明治・大正・昭和の ロングラン教科書

一八八二（明治15）年の著書「用器画法」は、西欧の幾何画法を導入した画期的な教科書として、一九四〇（昭和15）年代まで60年以上にわたって教科書として、全国の学校で使用され続けました。

「用器画法」は大変評価が高く、洋画の基本的な技法や、定規・コンパスなどの器具を用いて、正確に作図や設計ができる技術を学ぶためのものでした。



### 「画針・画鋸」の初出者

平瀬は教科書「用器画法」の中で、「紙ハ画針ヲ以テ画板ニ張ル」と初めて画針という語句を使用しています。

その後、東京帝国大学に転勤して書いた「新撰用器画法」



戦時中の代用ガバリ  
：木村源知氏提供

では「画針」ではなく「画鋸」と記述。教科書が全国で使われたため、全国的に定着したとみられます。

平瀬は、岐阜で師範学校や農学校の図画教員も兼務していたので、現在でも岐阜県美濃地方では「ガバリ」という言葉が残っており、多く使われています。

### 研究者として

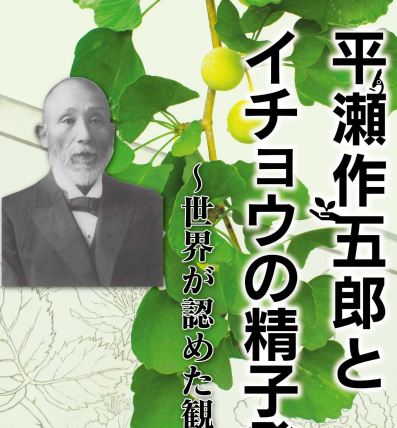
#### 帝国学士院恩賜賞



帝国学士院恩賜賞（裏面に、明治45年授、平瀬作五郎）

平瀬が受賞した第二回「帝国学士院（現日本学士院）恩賜賞」は、学術面で特別な功績のあった研究者に贈られる、日本で最も権威ある賞です。その後、湯川秀樹や野口英世、寺田寅彦、近くではiPS細胞研究の山中伸弥らが受賞しています。

【参考】平瀬の関連記事として「まなびや」第41号、第53号、第54号、第83号」参照



## 平瀬作五郎と イチヨウの精子発見

世界が認めた観察眼

教育博物館 特別展

令和8年5月23日(土)～7月5日(日)

【共催】福井市自然史博物館(福井市足羽上町147 TEL:0776-35-2844)  
開館時間：午前9:00～午後5:00 (入館は午後4:30まで)  
休館日：月曜日(祝日の場合はその翌日)・祝日の翌日

福井県教育総合研究所 教育博物館  
TEL:0776-58-2250 / FAX:0776-58-2251  
E-Mail:ed-muse@pref.fukui.lg.jp

入場無料